

福岡市総合図書館映像ホール
Fukuoka City Public Library Movie Hall

シネマ

Ciné-là

特別企画

映画を
読む。
文学を
観る。

シネラ・ニュース
March 2002 No.68

『炎上』 イラスト:花野孝史

特別企画

サイレント映画 弁士・楽団付き上映 Vol.6

「生まれてはみたけれど」

特 集

原 一 男 監督 特集

3

原一男 監督特集

会 期：6日(水)～10日(日)
観覧料：500円(大人)
400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制。
※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

原一男は寡作なドキュメンタリー作家だ。72年の「さようならCP」から30年間で、作品は今回上映する4作品に、萩市で見島で撮影した「わたしの見島」を加えてわずか5作品しかない。しかしその何れの作品も撮影対象に向かってカメラを向けたが最後、相手と心中しても撮り続けるとても表現したくなるような気遣いと、力強さに満ちている。長い時間をかけ、対象を撮影していくその姿は、小川紳介を彷彿とさせる。しかし原一男の作品は撮影対象を丸裸にして追いつめると同時に、撮影する監督自身が相手と一体となつて追い込まれていく、スリリングな感覚に溢れている。だから原一男作品は危うく、魅力的であり、時代と人間をナイフのように切り裂いていく。原一男が次に何を撮るのか、これほど新作が待ち遠しいドキュメンタリー作家もない。まさしく現代ドキュメンタリー作家の第一人者と言つて良いだろう。

7日(木)14:00
9日(土)11:00

さようならCP

監督：原一男

1972年/16ミリ/モノクロ/83分/ドキュメンタリー/疾走プロ



原一男の監督デビュー作。CPとは脳性小児麻痺のこと。CPの急進的団体「青い芝」は「働くことだけが正義の社会」を告発し、「オレたちの世界」をとりもどすため街頭行動を行う。原一男のカメラはそんな彼らの自己表現に真正面から対峙していく。

7日(木)19:00
9日(土)15:00

極私的エロス・恋歌1974

監督：原一男

1974年/16ミリ/モノクロ/93分/ドキュメンタリー/疾走プロ



女性運動家で原一男の妻であった武田美由紀は、赤ん坊と共に家をすて沖縄へ渡る。カメラを持って彼女を追う原一男。米軍相手に生計を立てる彼女のプライバシーに、原一男は執拗に迫っていく。

6日(水)14:00
8日(金)19:00
10日(日)11:00

ゆきゆきて 神軍

監督：原一男

1987年/35ミリ/カラー/121分/ドキュメンタリー/疾走プロ



天皇にパチンコを発射した事件をはじめ、過激な手段で天皇の戦争責任を糾弾するアナーキスト奥崎謙三を追いつめたドキュメンタリー。内外で高い評価を得て、ドキュメンタリスト原一男の評価を決定的なものとした代表作。

6日(水)18:30
8日(金)14:00
10日(日)15:00

全身小説家

監督：原一男

1994年/35ミリ/カラー/157分/ドキュメンタリー/疾走プロ



1992年に他界した作家・井上光晴を描いたドキュメンタリー。彼の約40年の創作活動の虚構と真実を、膨大なインタビューと、随所に挿入されるイメージドラマにより描き出していく。製作に5年を費やした意欲作で、野間宏などの作家が登場するのも興味深い。

特別企画：川端康成、夏

会 期：13日(水)～23日(土)

※休館日・休映日を除く

観覧料：800円(大人)
600円(大学生・高校生)
400円(中学生・小学生)

- 定員制・各回入替制。
- チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。
- 福岡市在住の障害者の方及び、福岡市在住の65才以上の方は400円。(手帳の提示が必要です。)

16日(土) 17:00
22日(金) 19:00

深い河

監督：熊井 啓
出演：秋吉久美子

常に心の中に満たされない何かを感じていた美津子と、クリスチャンでありながら西洋的価値観に疑問を感じる大津、かつて恋人同士であった二人は、遠いインドの地で再会する。原作者の遠藤周作自身が、自らの集大成と語る小説を、熊井啓が真正面から取り組み、生きるということの真の意味を問うた作品。

原作
遠藤周作



1995年/35ミリ/カラー/108分/深い河製作委員会=仕事130

17日(日) 11:00
20日(水) 19:00

花と龍

監督：山下耕作
出演：中村錦之助

火野葦平の大河小説の映画化。明治から大正にかけての北九州を舞台に、二介の沖仲仕から身を起し、九州一帯の港湾荷役を支配する大親分にまでの上りつがった玉井金五郎の半生を描く。「花と龍」は幾度か映画化されているが、本作では野心に燃える青年の姿をロマンティックに描いている。

原作
火野葦平



1965年/35ミリ/カラー/97分/東映

17日(日) 15:10
(講演会終了後、上映いたします)
22日(金) 14:00

土と兵隊

監督：田坂具隆
出演：小杉 勇

当時ベストセラーとなった火野葦平の兵隊三部作の一つである同名小説の映画化。広大な中国大陸を転戦し、ほとんど休みなく行軍し続ける前線の兵士達の姿を描いていく。監督の田坂具隆はヒューマニストとして、戦中戦後をとおして常に誠実な作品を作り続けた監督であり、その意味で軍事映画も敬遠しなかった。

原作
火野葦平



1939年/16ミリ/モノクロ/119分/日活

目漱石など誰もが知っている文豪の映画化作品により、映画と文学の関係を考える。

文学を観る。 映画を読む。

日本における劇映画はその黎明期において、新聞などに連載された娯楽小説や、歌舞伎や新劇などの演劇、講談などの演目を題材とする作品がほとんどでした。いわゆる「純文学」などの文学を映画化できるようになるのは、映画が大衆娯楽として定着し、映画独自の表現を獲得し始める大正中期以降です。こうした文学作品の映画化は、日本における映画芸術の一つの現れといえ、戦前戦後を通じて、様々な文学作品が映画化されてきました。

今回の特別企画では、当図書館の文学資料担当部門と協力して、特に文学史的に重要な作家の代表作の映画化作品を選んで上映し、併せて文芸評論家の関川夏央氏を招いての講演会も開催し、映画と文学の関係を考える試みです。

17日(日) 14:00~15:00 講演会

「文学とその映画化について」
——火野葦平の場合を中心に——

講師 関川夏央(文芸評論家)

■昭和24年生まれ。上智大学外国語学部中退。
■昭和60年『海峡を越えたホームラン』で講談社ノンフィクション賞受賞。ノンフィクション、エッセイ、小説、漫画スクリプトと幅広い分野で活躍中。主な著書に『ソウルの練習問題』『二葉亭四迷の明治四十一年』『戦中派天才老人・山田風太郎』『司馬遼太郎の「かたち」』『本よみの虫干し』など。
■谷口ジローとの共著『坊っちゃん』の時代は、日本漫画家協会賞(平成5)、手塚治虫文化賞(平成10)を受賞。平成13年、文芸・学芸の分野で秀でた活動をした人物に贈られる司馬遼太郎賞を受賞。現・早稲田大学客員教授。



※開場は開演の30分前。入場は有料制で、当日の「土と兵隊」の観覧料に含まれます。

放浪記

原作 林芙美子



15日(金) 14:00
23日(土) 14:00

監督：成瀬巳喜男
出演：高峰秀子

「放浪記」は林芙美子の戦前に発表された自伝的小説であり、彼女の出世作となったものである。彼女の絶筆であり未完となった「めし」の映画化以降、林文学を精力的に手掛けた成瀬巳喜男が、晩年に映画化したのが、本作である。成瀬による林芙美子像として観ることも可能だろう。

1962年/35ミリ/モノクロ/123分/宝塚映画

土

原作 谷崎潤一郎



15日(金) 19:00
23日(土) 17:00

監督：増村保造
出演：若尾文子

ある弁護士の妻が若い独身女性と偶然出会い、その魅力に心奪われていく。増村保造演出、新藤兼人脚本、若尾文子主演による谷崎潤一郎の同名小説の映画化作品。増村は様々な文学作品を独自の視点で映画化しているが、本作でも耽美的な谷崎の世界を、乾いた知性的な視点で捉えなおしている。

1964年/35ミリ/カラー/91分/大映

それから

原作 夏目漱石



16日(土) 14:00
20日(水) 14:00

監督：森田芳光
出演：松田優作

明治の文豪・夏目漱石の恋愛三部作のひとつ「それから」を、「家族ゲーム」などの作品によって80年代以降の日本映画界を代表する監督となった森田芳光が演出した作品。松田優作、藤谷美和子、小林薫など異色の配役も話題となり、国内の映画賞などでも高い評価を獲得した。

1985年/35ミリ/カラー/130分/東映

炎上

原作 三島由紀夫
「金閣寺」より



14日(木) 14:00
16日(土) 11:00

監督：市川崑
出演：市川雷蔵

50年代後半から60年代にかけて、市川崑は脚本家・和田夏十とともに純文学の映画化を数多く手掛けているが、本作はその代表作。原作は三島由紀夫の「金閣寺」だが、金閣寺側の抗議により改題し、寺の名前も変えている。市川雷蔵の本格的現代劇映画初出演作であり、この年のブルーリボン賞主演賞などを受賞した。

1958年/35ミリ/モノクロ/96分/大映

歌行燈

原作 泉鏡花



14日(木) 19:00
23日(土) 11:00

監督：衣笠貞之助
出演：市川雷蔵

謡曲一筋に生きる喜多八は、謡曲指南として田舎で権勢をふるう宗山の芸を侮辱し、ついには自殺に追いやってしまう。自責の念にかられた喜多八は謡曲界を去り、宗山の娘、お袖は芸妓に身をよす。泉鏡花の幻想的な世界を、市川雷蔵、山本富士子の共演によって衣笠貞之助が美しく映像化した。

1960年/35ミリ/カラー/114分/大映

山椒太夫

原作 森鷗外



13日(水) 14:00
21日(木・祝) 11:00

監督：溝口健二
出演：田中絹代

平安時代の末、人買いに騙されて母と引き離された二人の子供、安寿と厨子王丸は莊園主の山椒太夫のもとに、奴隸として売られてしまう。それから10年、二人は莊園を逃げ出すが……。森鷗外原作の平安絵巻を、「雨月物語」、本作、「近松物語」と連作し、戦後の全盛期にあった溝口健二が映画化した作品。

1954年/35ミリ/モノクロ/124分/大映

雪国

原作 川端康成



13日(水) 19:00
21日(木・祝) 15:00

監督：豊田四郎
出演：池部良

ノーベル文学賞受賞作家のあまりにも有名な代表作を、文芸映画の名手、豊田四郎が忠実に映画化。主人公、島村に池部良、芸者・駒子に岸恵子、島村に池部良、芸者・駒子に岸恵子を配し、それぞれの持ち味を活かしつつ、周囲の人物描写にも細心の注意を払い、洗練されたタッチで描いた秀作。

1957年/35ミリ/モノクロ/134分/東宝

特別企画

サイレント映画
弁士・楽団付き上映
Vol.6

懐かしの無声映画を弁士・楽団付きで上映するシリーズ企画の第6回。今回は巨匠・小津安二郎監督の戦前の傑作「生まれてはみたけれど」を上映。

弁士：澤登 翠（さわとみどり）

東京都出身。故松田春翠門下。弁士としてのキャリアはすでに25年以上であり、邦画、洋画、時代劇、現代劇と多彩なレパートリーを持つ。日本国内だけでなく海外での公演も多く、弁士の存在と「伝統話芸・活弁」を伝える貴重な存在として活躍している。95年日本映画批評家大賞ゴールド・グローリー賞、2000年山路ふみ子文化財団特別賞等を受賞している。

楽 団：カラードモトーン

指 揮：三味線：湯浅丈一
ピアノ：宮川渉 ヴァイオリン：西野ゆか
フルート：鈴木真紀子 太鼓：足立克巳
※楽団メンバーは変更になることがあります。
ご了承下さい。

■シネコラム

我が人生を映画に

私

が初めて、映画を観たのが小学生の時。学校の講堂で、その時観たのは『路傍の石』と言う映画だと記憶に残っています。私の子供時代は、娯楽といえば映画しかない時代。兄が映写技師をしていた関係で、劇場に足を運んで映画を観て楽しんだものです。

私も兄の影響を受けて、昭和三十年映画の黄金時代に映画館に入社、何よりも好きな映画が観られると言うことが理由でした。映写技師時代に写した作品で、今でも忘れられない作品は、ゲーリー・クーパの『ヨーク軍曹』『誰がために鐘は鳴る』、アラン・ラッドの『シェーン』ジョン・ウェインの『駅馬車』など、数えきれないほどの作品を写してきました。

その後、四十八年に東映に入社。東映では、宣伝畑一筋に歩きました。宣伝マンの仕事の

監督：小津安二郎

脚本：伏見 晃
撮影：茂原英雄
出演：斎藤達雄 吉川満子 菅原秀雄
突貫小僧 坂本 武

物 語

東京の郊外にサラリーマンの吉井一家が越してくる。吉井家には小学生の良一、啓二の兄弟がいる。さっそく近所のガキ大将亀吉と衝突する兄弟。ある日父の上司である岩崎専務の家で映写会が開かれた。映画には父の三枚目ぶりが映されていた。兄弟は父の卑屈さをなじるが、威信が危うくなった父は良一をなぐつてしまう…。



1932年/35ミリ/モノクロ/サイレント/90分/松竹

会 期：24日(日)14:00

観覧料：1,000円

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※高齢者及び障害者割引はありません。
※ホール開場及びチケット販売は13時より。

申し込み方法

- 往復ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号、「生まれてはみたけれど」観覧希望と記入の上、下記住所までお申し込み下さい。
- 応募多数の場合は抽選となります。
- 応募締め切りは3月5日(必着)まで。お一人様往復ハガキ一枚で応募してください。

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課宛

一つはマスコミとの対応です。製作発表、ロケや撮影所取材を段取りし、監督や主演俳優の完成記者会見を通して話題を盛り上げる仕事です。お陰でたくさんの方々の「吉永小百合」「夏目雅子」「岩下志麻」「名取裕子」「鶴田浩二」「高倉健」「松方弘樹」「千葉真一」など数えきれない方々と会うことが出来、今でも夢のように思っています。



吉永小百合さんと

近年は、テレビ、ビデオの攻勢と、娯楽の多様化で、映画も次第に衰退し観客が減る中で、新たに「シネコン複合映画館」が出来、「活動屋」の時代からシネマビジネスの時代に。ただ、現場で映画を支える人たちの映画への思いは今も変わらないと思います。

私も、今は映像ホール・シネラで、懐かしい映画を映し、人生を楽しんでいます。

素晴らしき哉、映画人生！

映写技師 柏木 一夫

■お知らせ

各団体の自主上映

●3月3日(日)

清水宏監督特集

13:00「花形選手」(1937年・松竹)

15:00「按摩と女」(1938年・松竹)

観覧料/各1,300円

主 催/電ノコニ刀流

(Tel. 092-843-7864 明石誠)

●3月30日(土)13:00

「戦争と人間 第2部 愛と悲しみの山河」

(監督：山本薩夫)

観覧料/前売：1,200円 当日：1,400円

主 催/福岡映画サークル協議会

(Tel. 092-781-2817)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

3月

上映スケジュール

1 金	休 映 日		
2 土	休 映 日		
3 日	自主上映「清水宏監督特集」		
4 月	休 館 日		
5 火	休 映 日		
6 水	原一男 14:00 ゆきゆきて神軍	18:30 全身小説家	
7 木	14:00 さようならCP	19:00 極私的エロス・恋歌1974	
8 金	14:00 全身小説家	19:00 ゆきゆきて神軍	
9 土	11:00 さようならCP	15:00 極私的エロス・恋歌1974	
10 日	11:00 ゆきゆきて神軍	15:00 全身小説家	
11 月	休 館 日		
12 火	休 映 日		
13 水	14:00 山椒太夫	19:00 雪 国	
14 木	14:00 炎 上	19:00 歌行燈	
15 金	14:00 放浪記	19:00 円	
16 土	11:00 炎 上	14:00 それから	17:00 深い河
17 日	14:00 花と龍	14:00 講演会	15:10 土と兵隊
18 月	休 館 日		
19 火	休 映 日		
20 水	14:00 それから	19:00 花と龍	
21 木	11:00 山椒太夫	15:00 雪 国	
22 金	14:00 土と兵隊	19:00 深い河	
23 土	11:00 歌行燈	14:00 放浪記	17:00 円
24 日	サイレント映画弁士・楽団付き上映Vol.6「生まれてはみたけれど」		
25 月	休 館 日		
26 火	休 映 日		
29 金	休 映 日		
30 土	自主上映「戦争と人間 第2部 愛と悲しみの山河」		
31 日	月 末 休 館 日		



交通アクセス：当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
地下鉄：西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス：天神～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約20分)
博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約25分)
福岡タワー南口バス停から徒歩3分
いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。
お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑誌

今月の文学映画は、昨年2月に実施した文学映画特集のパート2の企画だ。昨年のラインナップと比較しても、より文学の薫りが高い映画作品を集めている。日本映画の監督らの文学に対する挑戦シリーズとも言える。果たして映画は文学を超えることができるだろうか。その判定はシネラを訪れるお客さんに委ねよう。(H.I.)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表) 092(852)0600 映像資料課 092(852)0608 Fax. 092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>